

新型コロナ ワクチン 接種

65歳以上の高齢者への接種券の郵送時期は
国からのワクチンの供給が遅れているため
「3月下旬」から「4月中」に変更します。

掲載している内容は3月10日現在のものです

新型コロナの発症予防・まん延防止のためのワクチン接種
に向けて、準備を進めています。

接種する順番は、医療提供体制の確保や重症化リスクなど
を踏まえ、①65歳以上の高齢者②基礎疾患がある方・高齢者
施設などの従事者③それ以外の方です。

接種券の郵送は、①の方には4月中②③の方には5月中を予
定しています。接種費用は無料ですが、接種を受けるには予
約が必要です。詳しい情報は、市ウェブをご覧くださいか、
コールセンターにお問い合わせください。

☎ 新型コロナワクチン接種コールセンター ☎0570-098-894
(平日の午前8時30分～午後5時)

Q 接種のスケジュールは？

A 65歳以上の高齢者は5月以降に接種を開始します。なお、本
市では高齢者施設入所者へ4月から先行接種します。65歳未
満の方は7月以降の接種開始を予定しています。

Q 接種会場はどこ？

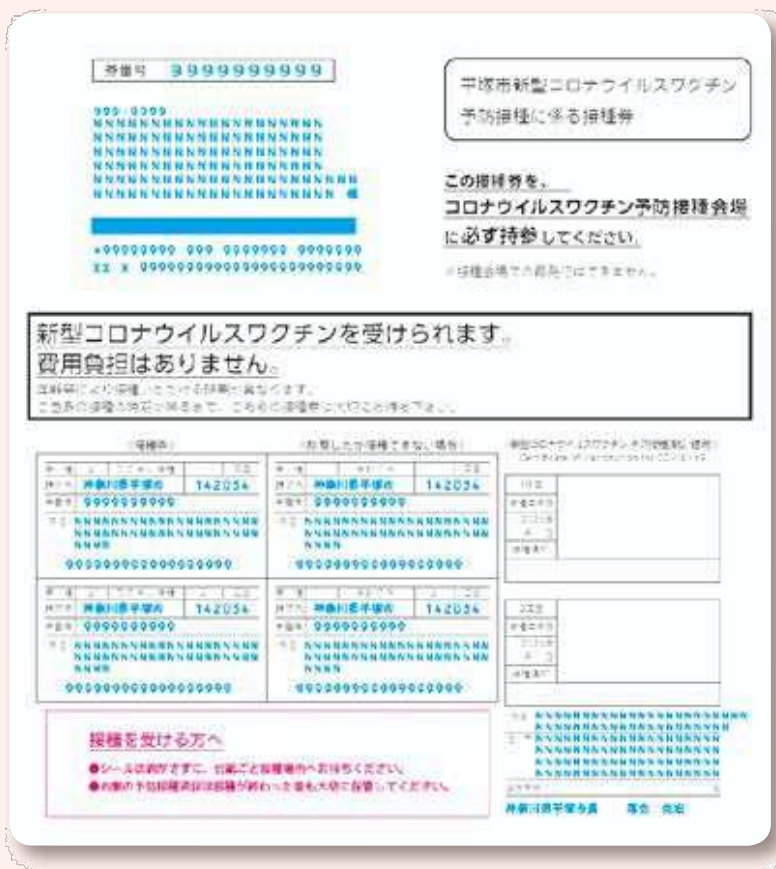
A 接種が受けられる場所は、医療機関(かかりつけ医など)と、
集団接種会場があり、選ぶことができます。医療機関は、広
報ひらつかなどでお知らせする予定です。
集団接種会場は、5月以降当面の間、土・日曜日に開設します。
保健センター・市役所本館は毎週、ラスカ平塚・グランドホ
テル神奈中・平塚プレジール・各公民館(神田・旭南・金目・
金田・土屋)は不定期に開設します。

Q 予約はいつからできる？

A 接種券が届いたら予約できます。ただし、ワクチンの供給状
況により、予約できる時期が遅れる場合があります。

Q 予約方法は？

A 個別の医療機関で受ける場合と、集団接種会場で受ける場合
で、予約の方法が異なります。
①医療機関で接種を受ける場合 各実施医療機関に確認し、
直接予約してください。
②集団接種会場で接種を受ける場合 電話またはウェブで予
約してください。電話の場合は新型コロナワクチン接種コー
ルセンター☎0570-098-894へ、ウェブの場合は接種券に同封
の案内状に記載された2次元コードを読み取り、案内に従っ
て予約してください。



▲ 接種券 (サンプル)

！ ご注意
ください

接種券の郵送時期をは
じめとする全ての予定
は、ワクチンの供給状
況などにより変更する
場合があります。

その他の新型コロナ関連記事は 8 面

目次	1面…新型コロナワクチンに関する情報	8面…「まちの話題 写真リポート」・「市長コラム」など
	2・3面… 特集 あなたの暮らしを支える自治会…特色ある活動 をしている自治会を紹介します。	広報ひらつかのPDF版は市ウェブからご覧いただけます。 アプリ「マチイロ」や「Catalog Pocket(10言語対応)」からも最 新版がご覧いただけます。
	4～7面…お知らせ・健康と福祉・募集・「子どもの健康」など	
	●発行 平塚市 ●編集 広報課 ●法人番号 3000020142034 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 ☎0463-23-1111 〆0463-23-9467	



手洗いで感染症を防ごう！

あなたの暮らしを支える自治会

日常生活のさまざまな場面で、地域住民をサポートしている自治会。清掃やパトロールなどの活動を通して、今日も安心・安全な暮らしを守っています。

問 協働推進課 ☎21-9618



新型コロナウイルスの感染が広がる中で、自治会活動も大きな影

もう一度地域が
つながるために

「自治会は、地域の人々が互いに助け合って生活していくためのもの。自治会活動を通して人とのつながりを作ることが、安心で安全な暮らしに結び付きます」と、市協働推進課の柿沼崇主査（左写真）は話します。

自治会は、地域の安全を守ることや、環境美化・福祉・教育に関わることなど、多岐にわたって活動しています。「さまざまな活動を通して連帯を強化することで、地域がより一層活性化します。人と人とのつながりは、災害時など、いざという時にも役立つはずです」。

地域の活動を多方面からサポートする

一方で、近年は少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの変化などにより、自治会加入率が少しずつ減っていることや、役員などの担い手不足が課題となっています。「新型コロナウイルスによって自治会の活動が停滞したことは、課題に向き合う良いきっかけになった

持続できる地域
活動を目指す

「自治会は、地域の安全を守ることや、環境美化・福祉・教育に関わることなど、多岐にわたって活動しています。市は、地域の活動再開やつながりの再構築を後押しできるよう、申請した自治会に10万円を交付する「地域活動再開円滑化交付金制度」を作りました。交付金を活用し、感染対策を万全にしてイベントなどを開いた自治会長からは『大変だったが、久しぶりにみんなとコミュニケーションがとれて、コロナでふさぎ込みがちな気持ちが晴れた』などのうれしい声を頂きました。地域がもう一度つながるために、サポートし続けたいですね」と笑顔を見せます。

市は、地域の活動再開やつながりの再構築を後押しできるよう、申請した自治会に10万円を交付する「地域活動再開円滑化交付金制度」を作りました。交付金を活用し、感染対策を万全にしてイベントなどを開いた自治会長からは『大変だったが、久しぶりにみんなとコミュニケーションがとれて、コロナでふさぎ込みがちな気持ちが晴れた』などのうれしい声を頂きました。地域がもう一度つながるために、サポートし続けたいですね」と笑顔を見せます。

響を受けていると話す柿沼主査。「地域の人が多く参加する盆踊りや夏祭り、地区レクなどが開催できず、人と人との触れ合いの機会がない状態が続いていることから、自治会役員の中には危機感を覚えている方も多かったです」と懸念します。

知っていますか ちいき情報局

ウェブ上で地域内のさまざまな情報を共有・閲覧できるシステムです。

市内の小学校区ごとに自治会や学校、各種団体などから、多くの情報が発信されています。右の2次元コードからアクセスできます。



ともいえますね。全てを解決することは難しいですが、今後も地域と行政が一緒になって、より良い地域活動ができるように進めていきます」と柿沼主査は力を込めます。

また、外出自粛要請や学校の休校が続いた、昨年春の緊急事態宣言発出中に多く活用された「ちいき情報局（右囲み）を、4月にリニューアルします。スマートフォンで見やすくなり、より手軽に情報を入手できるようになります。地域活動や地域運営は、それぞれの実情に合ったやり方があります。まちづくりの大切なパートナーである自治会とともに、安心で住みやすいまちを目指すために、行政として、もっと自治会の魅力を発信していきたいですね」。



パトロールで 安心な地域を

吉沢地区自治会連合会

昨年の12月6日、寒さに負けずに吉沢地区内を巡回する、太鼓の山車と軽トラックの姿がありました。軽トラックの荷台には「防犯パトロール」「絆」と書かれたステッカーが貼られ、太鼓の音色に合わせ、地区内を巡っていきます。

「吉沢地区には農家が多く、皆自家用の軽トラックを持っているので、日常の中でも『ながらパトロール』として、地域内を見守っていますよ」と話すのは、吉沢地区自治会連合会の秋山貢^{みつぐ}会長（上写真）。同連合会では平成29年から、軽トラックでの防犯パトロールに取り組んできました。「子どもたちも意識してくれているようで、『学校の近くにいたよね』などと声を掛けてくれます。地域の皆の声を聞かたに、地元貢献できていると感じられてうれしくなりますね」。

一緒に取り組む意味

パトロールを中心に地域の連帯感を高めてきた同連合会。しかし、新型コロナウイルスの影響で人と会えない時期が続き、焦りを感じていたと秋山会長は話します。「地域のイベントであるお祭りや、子どもたちが待ち望む太鼓の演奏発表も、全て中止か規模を縮小しなければいけません。次の世代へ地域の伝統を伝えていく上で、これではいけないと思っていたんです」。そこで、地域の絆をさらに強めるとともに、

太鼓を演奏する機会を作るために、防犯パトロールに太鼓山車を組み合わせることを考えた秋山会長。同時に「地域活動再開円滑化交付金」を活用し、ステッカー（右写真）を作りました。



しかし、始めるに当たって経路の設定や警察への届け出など、苦労が多かったと振り返ります。「それでも、子どもと大人、つまり太鼓山車と防犯パトロールを混ぜることで、地域の盛り上げは地域全体でやるんだということを再確認できる、大変有意義なイベントになりました」と笑顔を見せます。

地域全体のために

今後も防犯パトロールを続けたい、と話す秋山会長。子どもと地域のために、できることは何でもやりたいと意気込みます。「6月には吉沢公民館の再整備が完了するので、住民が交流しやすくなり、地域の絆もより深まると思います。これからも地域が一つになって何かを成し遂げていくという姿勢を、忘れないようにしたいです」。





いつでもつながられる 自治会を作る

崇善地区自治会連絡協議会

2月16日、利用者のにぎやかな声が響く崇善公民館の一室に、真剣な表情でパソコンの画面に向かう人たちの姿がありました。「崇善地区自治会連絡協議会では月に一度、ウェブ会議のための講習会を開いています。皆最初は恐る恐るでしたが、やってみると楽しいようで、積極的に参加してくれるようになりました」と、同協議会の栗原邦夫会長(上写真)は声を弾ませます。

同協議会ではメールを活用し、自治会関係の連絡などを積極的に電子化しています。「ウェブ会議はその発展形であり、目標なんです。メールもいいですが、やっぱりお互い顔を見て話したいですね。最終的には、皆がオンラインで会議に参加することを到達点にしたいです」。



オンラインでも多くの人が参加します

個々への配慮が可能に

これからの自治会活動はオンライン化の時代、と話す栗原会長。定期的に関く会合などは全てウェブ会議にすることで、参加者への

真剣な表情で
操作します



細かい配慮ができるようになっていきます。「対応が難しい個々の事情にも、ウェブ会議なら配慮できます。例えば、ケガなどをしている人は来なくていい、家事の合間に参加してもいい、といった具合です」。

また、災害などの非常時のためにも、オンライン化の準備をしておくことが有効だと言います。「コロナ禍の今もそうですが、実際に人が集まって自治会活動を行うことができない状況は、またいつ来るか分かりません。自治会活動のオンライン化は、長い目で見て必要です」と力を込めます。

オンラインで豊かな生活を

「もちろん、オンライン化に慣れておくことは、自治会活動だけに生かすため、ということではありません」と栗原会長。「例えば、遠くに住む家族とオンラインで話せるようになるなど、自分の日常生活の中にもメリットがたくさんあります。高齢の方も遠慮せず、ぜひチャレンジしてほしいですね」とほほ笑みます。

現在は崇善地区連合会の中だけでオンライン化に取り組んでいますが、将来的には市内の全自治会がオンラインでつながったらいい、と希望を語ります。「4月からは、崇善以外の自治会の人も講習会に参加できるようにします。これを皮切りに、オンライン化への取り組みを地域住民へ積極的に働き掛けていきたいですね」。



同連合会は地域団体と連携して、令和元年からあいさつをテーマに、地域の活性化に取り組んでいます。その中でも目を引くのが「あいさつ標語」の取り組みです。「令和元年の11月に、松原小学校の児童と地区住民に募集したところ、なんと31件もの応募があったんです」と武井会長

道具を有効活用

「月に一度、自治会の役員などが力を合わせ、登校を見守っています」と話すのは、同連合会の武井健治会長(左写真)。見守りでは率先して笑顔で声を出し、児童を学校へと送り出しています。

松原地区自治会連合会

あいさつで 地域を一つに

「みんな、おはよう」「今日もがんばってね」

2月10日の早朝、吐く息が白く見えるほどの寒さの中、松原小学校への通学路を登校する児童に、松原地区自治会連合会のメンバーらが声をかけます。

「月」に一度、自治会の役員などが力を合わせ、登校を見守っています」と話すのは、同連合会の武井健治会長(左写真)。見守りでは率先して笑顔で声を出し、児童を学校へと送り出しています。

は笑顔で話します。



のぼり旗とストラップが見守りの目印です

地域の未来のために

「最近では、子どもたちのあいさつを返す声が大きくなってきたなと感じます」と目を細める武井会長。あいさつでコミュニケーションをとることが、地域の未来につながるはずと続けます。「子どもたちが大人になっても『あいさつをする』という基本を忘れなければ、自然と顔が見える関係を作れますし、いざというときにお互い気兼ねなく助け合えると思うんです。子どもたちのために、今後見守りとあいさつを続けていきたいですね」。

東海大学健康学部健康マネジメント学科の講師であり、**地域の活動を活性化させるアプローチ法**などを研究している、市川^{きょうこ}享子先生に話を聞きました。



地域での活動は、例えば清掃や声掛け運動など、身体的な活動を伴うことが多く、自治会活動はその典型的な例です。特に高齢者にとっては、日常的に自治会活動に参加することで、社会とのつながりを得ながら体の健康管理ができ、まさに一石二鳥。身近でできて誰もが参加でき、体も動かせる自治会活動は、体と心、そして社会の「三方よし」を目指すための良い装置になると思います。

また、今後の自治会活動は、次世代を育成する、という視点で運営していくと、

継続していけるのではないかと考えています。イベントの運営や地域内の見守りなど、自治会活動には世代間交流が多いはず。そこで自治会の中心となるメンバーが「今まではこうやってきたんだから」と考え方を固定化してしまわずに、自治会を担っていく若い世代に、思い切って活動のかじ取りなどを任せてみるのです。

メンバー全員が柔軟な考え方をもち、お互いに協力し合うことで、自治会活動はさらに活性化するでしょう。

あなたも自治会に 入りませんか

市内の各自治会では、いつでも加入を受け付けています。自治会活動を通して、地域の方と信頼し合える関係作りをしませんか。

詳しくは協働推進課 ☎21-9618 にお問い合わせてください。

プレイバック ひらつか



広報紙編①

広報ひらつかデジタルアーカイブで見ることができる過去の紙面から、昔の平塚市の姿を紹介します。時代が移り変わる様子をご覧ください。今回は、今から50年前、昭和46年（1971年）3月15日号の紙面です。

問 広報課 ☎21-8761



広報ひらつか233号・1面

平塚の電話いま28000台

やがては自動車電話なども

一方、平塚電報電話局（田川啓次郎局長）では、施設の近代化、電話事情の緩和、特に急務として、市外通話の解決をはかるため昭和四十三年十一月から三億五千万円を投じて局舎の増築工事を進めていたが、昨年暮れに完成しました。相模川以西の今後の発展を想定し、十五年後の見通しのもとに大規模交換機の導入やボックストベル、自動車電話、TV電話、プッシュホン（科学計算サビ）など情報処理時代の新しいサービス面にも立ち向かうため、旧局舎の機械棟に台合せて大規模改築をします。

平塚電報電話局管内にはいま二万八千台の電話がありますが、申し込みを受けていまだにひけない電話一線増設数は一月末で四千六百本あります。ともすると電話は通話線へつなげずとも、電線は通話線へつなげずとも、その簡便にはいきません。ケーブル内の収容本数も大小あり、地下の大ケーブルなど系統改築するには多額の費用がかかるわけですが、また地域、つまり局番（21・22・31・32・55・58）によっても事情が異なります。局の説明によると住宅用の場合は最低六ヶ月から一年半くらい、営業用では三ヶ月から八ヶ月くらいお待ちいただくかなければならないそうです。昭和四十五年年度では約五千本の電話がひきましたが、反面毎月申し込みは四百本、多いときは五百五十本という現状です。この増設でもこの増設の緩和をはかるための必要なスペースが確保されてあります。

いずれにしても、いまや生活の必需品としていわれるようになった電話需要の緩和と電話の新しい発展の発展のために、着々とこのような施設が完成されていくことは心強い限りです。

新局舎の名義別の説明は専門的にわたりますので省略しますが、みなさんが電話の申し込みやご相談に出でるときは、八幡大門通り側からお入りになるようお願いいたします。

当時の平塚の世帯数は約4万5,000世帯で、2万8,000台は普及率でいうと約6割といったところ。回線数が急増している時期であり、記事には新規に申し込んでも、電話線が引かれるまで半年～一年半かかるとあります。また、「生活の必需品とまでいわれるようになった」ともあり、家庭の電話というものが、ようやく世間に普及してきたことがうかがえます。携帯電話が普及し、いつでもどこでも連絡を取り合える現在からは、なかなか想像がつかえません。ちなみに、昭和46年の固定電話の回線数は、国全体で約2,000万。電話交換手を通さない自動接続率が100%に近い水準になったのもこの時期でした。

市民からさまざまな要望が寄せられるコーナーです。この号では、真田地区に住んでいる方から広報無線の設置の要望が届いています。現在は防災行政無線と呼ばれる屋外設置のスピーカーですが、当時は市内30カ所にしか設置されていなかったようです。現在は126カ所に設置され、市内全域をカバー。災害時の緊急放送や行方不明者捜索などのお知らせを伝えるのに活用しています。また、日没時間に夕焼け小焼けのメロディを流す「愛の鐘」の放送もしています。

広報無線を設置して

市中心部から遠い真田地区

毎年1基増設を予定

声のひろば

現在、市内30カ所の発信装置からお知らせを毎日午後4時に放送しています

第1弾は育児相談から

市民センターへ

市民センター事務局

広報ひらつか233号・7面



広報ひらつか233号・8面

ホテルや専用の式場で挙げるのが一般的となった現在の結婚式。当時は市民センター（見附町15-1・現在建て替え中）で多くの結婚式・披露宴が開かれました。開館から9年目を迎えるこの年の2月には2,900組目のカップルが挙式し、当時の加藤一太郎市長がお祝いに駆け付けするなど、公共施設での挙式は一般的なものだったようです。

挙式と披露宴は

市民センターへ

挙式は1日につき8回を予定しております

午前9時から	午後1時から
(35人以下)	(50人以下)
10時(35人以下)	2時(35人以下)
11時(35人以下)	3時(35人以下)
12時(80人以下)	4時(35人以下)

10月挙式の方は4月1日より受け付けます。

市民センター事務局

市ウェブ上の広報ひらつかデジタルアーカイブでは、昭和24年発行の創刊号から現在までの全ての紙面を見ることができます。右の2次元コードからもアクセスできますので、ぜひご覧ください。

